

道 建 労 協 機 関 紙



Council of Road Construction Worker's Unions(C.R.U)

道路建設産業労働組合協議会

〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11 (NIPPO 労働組合内)

電話03 (3563) 6744

URL: <http://www1.ocn.ne.jp/~cru>



道建労協 新年挨拶



議長 松 雅彦
(NIPPO労働組合)

組合員の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年、SARSの拡大やイラク戦争への突入、また懸念されていた日本人の犠牲者がでるなど尊い命が犠牲となる波乱の年でした。さらに国内に目を向けると、株価が1万円台を回復するなど幾つかの経済指標が好転してきている反面、厚生年金改革やイラクへの自衛隊派遣等、次年に結論を持ち越す問題が山積みされた年であったと思います。

小泉構造内閣が再スタートしたことで、特殊法人の見直しが本格的に動き出す兆しがあり、その中でも道路関係4公団民営化の議論、またそれに伴う道路特定財源の一般財源化問題等、先行き不安の案件が数多くあり、今年も非常に厳しい状況が予想されます。

これからの厳しい時代を生き抜いていくために、今年は「自分自身の意識改革の年」にしようではありませんか。当事者意識を強く持つて物事に取り組みればおのずと道は開かれるのではないのでしょうか。

道建労協は道路建設産業を代表とする産業別労働組合として地道で着実な活動を展開していきます。柔軟な発想と迅速な対応で加盟単組の支援となる情報を提供していく所存ですので、更なるご協力とご支援をお願いします。

最後になりますが、本年が道建労協加盟単組の皆さんにとって良い一年となりますよう祈念いたします。年頭の挨拶とさせていただきます。

先日、3歳の娘と二人で「ファインディング・ニモ」を観にいった。

ストーリーは、小さな魚の大きな愛が生んだ奇跡の冒険の物語である。人間にさらわれた息子を探すため、いつもは臆病な父親が恐れず、勇気を出して、果てしなく広い海へと旅立ってゆく。いろいろな困難に遭いながらも、様々な出会いによって周りに助けられ、最後は愛する息子と再会する。

印象は、コンピュータアニメーションの技術、水中という非日常的な世界の、光、砂、石、植物や生き物など細部にわたるリアルさに驚かされた。アニメ映画とはいえ侮れず、(いまや、人間の技術をもってすれば、画面上で表現できないものは、ないのではないだろうか?)

家庭の問題、環境の問題とメディアで取り上げられるような話題と関連付けて考えてしまいが、まずは、父親マーリンの勇気と家族愛を見習うべきか? デジタルな映画を観て、アナログな感想であった。

映画が終わり、娘が一言、「パパ、大好き」子供達の将来の世界を案ずると同時に、果たしていつまでそう言うてもらえるのか?。

全大有労働組合

小島 剛

「建設産労懇 第5回総会」

日建協、建設連合、通建連合、全電工労連、長谷工グループ労組とともに結集している建設産労懇の第5回総会が、10月24日東京・港区の友愛会館において、各組織から41名の参加により開催された。2002年度の活動として、6月と11月に共同で取り組んだ土曜閉所運動のほか、春闘を始めとした情報交換の実施により、同じ建設産業でありながら異なる立場の相互理解を推進したことが報告された。つぎに各組織の現状や活動方針の情報交換の後、引き続き協力体制をとってそれぞれの組織の抱える問題の解決に協力していく事が確認された。2003年度の重点課題として、春闘への対応、土曜閉所推進、労働時間管理の適正化に向けた取り組みがあげられた。総会の後、日刊建設通信新聞社の西山社長による建設産業の将来像についての講演会が開催され、78名の聴衆が集まった。講演で、西山社長は従来型の建設投資は減るが、建設の技術は産業として多様化しながら全体では拡大していくとの見識を披瀝し、建設産業に従事する者としてとても元気づけられる内容であった。

事務局長 西 聖二

「企業訪問」

加盟10単組のうち、10月27日の東京舗装工業を皮切りに大林道路、三井住建道路、フジタ道路、大成ロテック、前田道路、大有建設の各社を企業訪問した。道建労協が推進する第2第4の土曜閉所運動の強調月間については職制上の通達が出される企業が増えてきているが、厳しい経済情勢に大きく水を差されている状態であり、現状の改善へ一層の協力を依頼する他、産業の将来的不安定感から厳しさばかりが強調され、日常の業務においても疲弊感が組合員に広がっていることから、働く元気や仕事に対する達成感を取り戻すためのアプローチについても意見交換を行った。



事務局長 西 聖二

土曜閉所運動結果(2003年11月)

私ども道建労協では、時短活動の一環として毎年6月と11月を建設産労懇（建設産業労働組合懇話会）の仲間と共に時短推進強化月間と位置付けております。昨年11月も『つくろう休むゆとり。もとう休む勇気。』という標語が記載されたポスターを各事業所に配布して事業所の閉所を呼びかけながら『第2・4土曜日の閉所運動』を継続して実施してまいりました。また、道建労協加盟単組各社、日本道路建設業協会およびアスファルト合材協会に要請書を提出して、事業所閉所にご協力して頂くようお願いしました。道建労協では、これら取組みの結果を調査するため2003年11月に全事業所を対象にアンケート調査を実施し10単組のうち、7単組66事業所、3898名の組合員の皆さんから回答を頂きました（図1）。回答を頂いた事業所形態の内訳は、営業所・出張所（営業機能有）が338事業所で全体の50.8%、次に合材工場・乳剤工場で221事業所、33.2%で、この2種類の事業所形態で全体の84.0%であった（図2）。なお、今回のアンケート調査では、事業所形態の違いにより閉所や土休取得がどのような結果となるか、そして、休日取得や時短を進めるうえで、今後望まれることについても調査しました。

2003年11月の全国の閉所率は第1土曜日11.3%、第2土曜日13.4%、第3土曜日11.0%、第4土曜日14.1%、そ

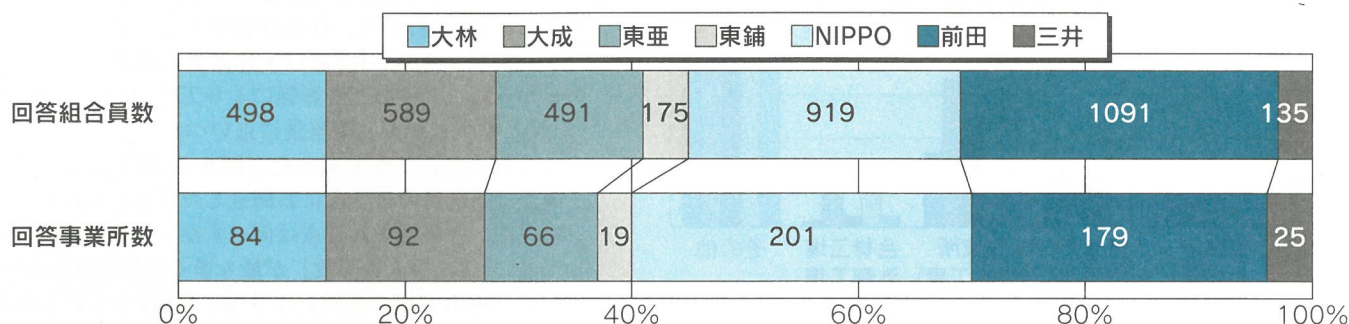


図1 単組別の回答事業数と組合員数

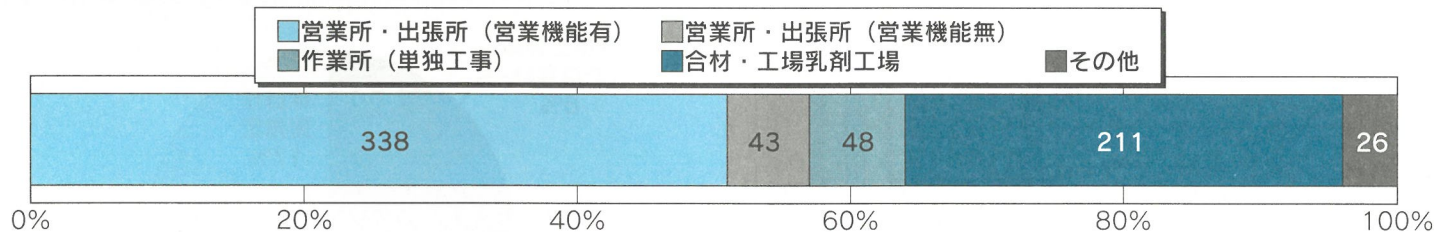


図2 事業所の形態

して第5土曜日は8.9%でした（図3）。2002年11月の第2土曜日と第4土曜日の閉所率は、それぞれ32.0%、30.8%だったので、2003年は2002年の閉所率と比べると半分以下の結果となった。そして、『統一土曜閉所日』と位置付けた第4土曜日が11月中で、最も高い閉所率となりました（表1）。

単組別では、大成ロテック社組と前田道路労組で閉所率が低かったが、土休取得率では前田道路労組の第2・第5土曜日以外は、各単組とも全体の平均に近い結果であった。前田道路労組の第2・第5土曜日に土休取得率の低かったのは『制度上休みではない』が理由だと考えられる（図3・4）。

地域別の閉所率を昨年と比較できる第2・第4土曜日だけ見てみると、全国

表1 全国の閉所率推移

	2001年 11月	2002年 11月	2003年 11月
第1土曜日	—	—	11.3%
第2土曜日	12.7%	17.5%	13.4%
第3土曜日	—	—	11.0%
第4土曜日	12.6%	20.7%	14.1%
第5土曜日	—	—	8.9%

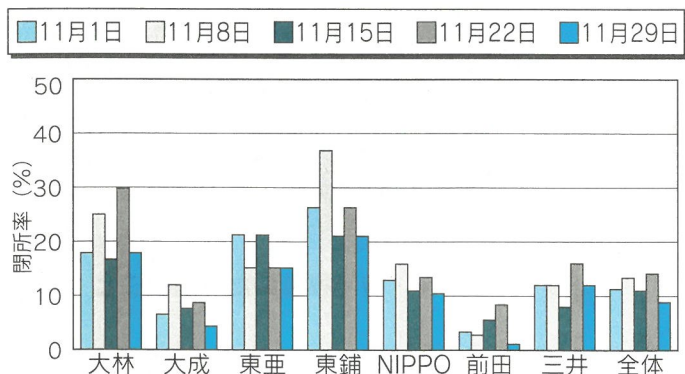


図3 単組別閉所率

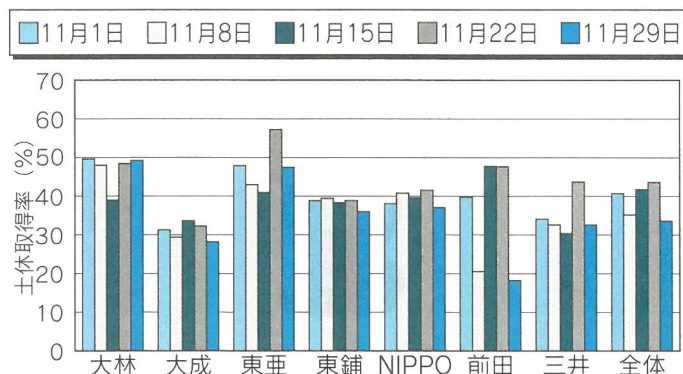


図4 単組別土休取得率

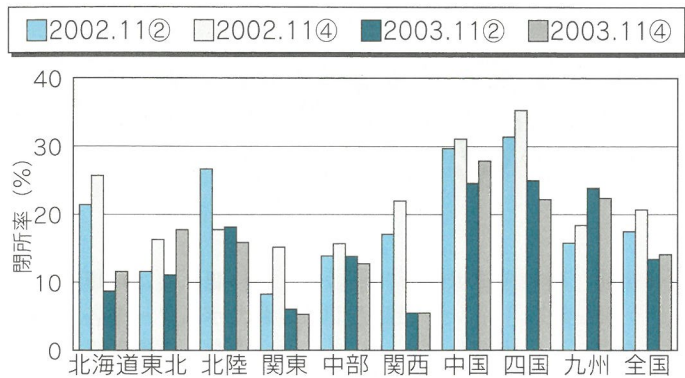


図5 地域別事業所閉所率

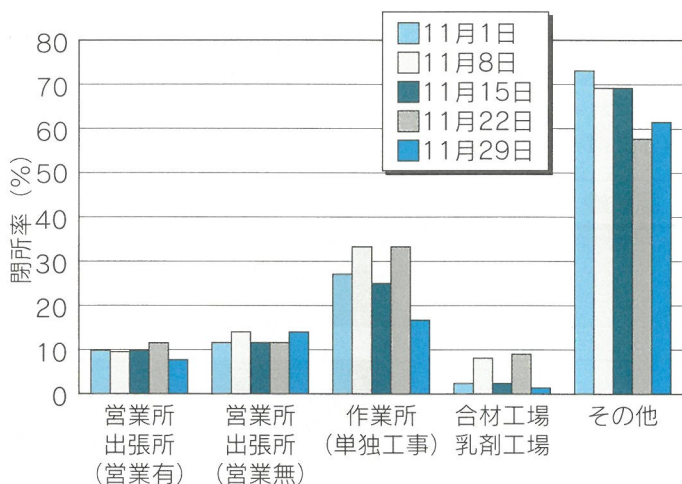


図6 各事業所形態の閉所率

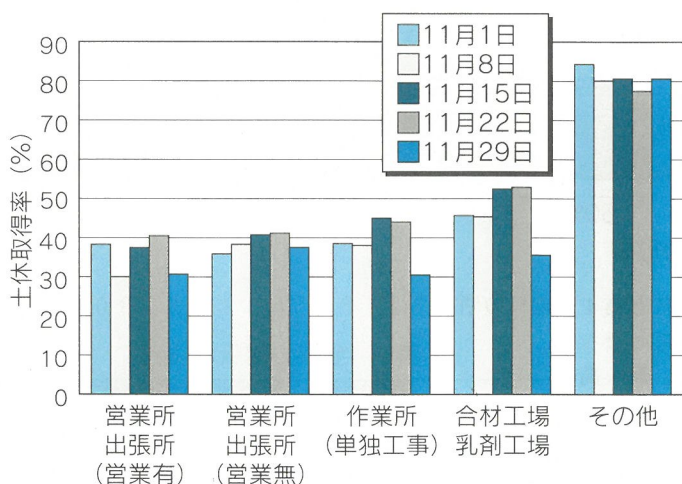


図7 各事業所形態の土休取得率



の平均閉所率は昨年より低下していた。特に、北海道、関東および関西の閉所率が著しく低下していた。

一方、東北および九州の各地域では、昨年の閉所率と比べて若干高くなる結果となった(図5)。

次に、事業所形態の違いによる閉所率は、合材工場・乳剤工場の閉所率が最も低く、営業所・出張所(営業機能有)、営業所・出張所(営業機能無)、作業所(単独工事)と続き、その他事業所(本支社店、研究所、試験場など)では高い閉所率となった。アンケート自由意見欄に多く書かれていた『顧客からの出荷依頼があるため閉所することは出来ない』が合材工場・乳剤工場の閉所率が低かった理由として考えられる(図6)。

また、事業所形態の違いによる土休取得率は、その他事業所が閉所率と同様高い取得率であった。営業所・出張所(営業機能有)、営業所・出張所(営業機能無)、作業所(単独工事)や合材工場・乳剤工場の土休取得率については、閉所率ほど大きな差は見られず、逆に合材工場・乳剤工場の方が若干高い土休取得率となった(図7)。事業所を閉所することの出来なかった理由として、『休日作業指定の工事があるから』が最も多く15%、『営業打合せ、作業打合せなど得意先からの要請があるため』が14%、『下請け・作業員の作業に立ち会う必要があるから』、『天候などの影響により工程が遅れているため』、『配置人数が少なく、業務量に追いつかないため』がほぼ同数で、それぞれ13%であった(図8)。最後に今回のアンケート調査で組合員の皆さんにお聞きした『休日取得や時短を進めるために、今後望まれる点は何ですか』の質問に対する答えとしては、『適正な人員配置』が最も多く全体の25%となった。次いで『提出書類の削減』19%、『法律などによる規制』18%、『業務内容の改善』17%、『協力会社の育成』12%、『職場の話合い』9%でありました(図9)。

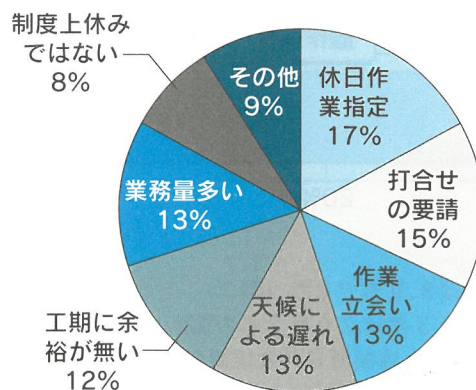


図8 閉所出来なかった理由

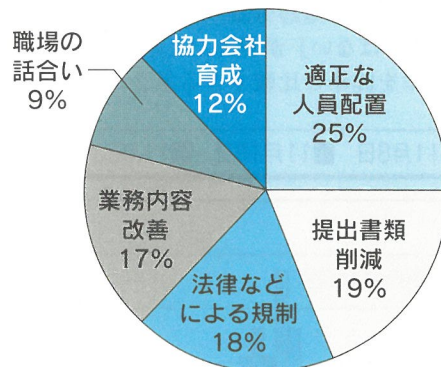


図9 休日取得・時短推進のため望むこと

道建労協ではこれらの調査結果をもとにさらに土曜休業がしやすい環境づくりへ向けた取り組みを行っていきま、アンケート等へのご協力ありがとうございました。

地協活動報告

北海道地方協議会定期大会

北海道地協では、10月24日、ホテルライフオート札幌において、加盟7単組の代議員およそ40名出席のもと、第13回定期総会を開催しました。

森川事務局長(NIPPO労組)の大会成ウ宣言および開会宣言に始まり、選出された新井大会議長(大成ロテック社組)により議事はすみやかに進行しました。

最初に、今回で退任される湯浅議長(大成ロテック社組)より、北海道地協の発足当初よりつい近年まで10年以上に渡り、幹事・副議長として地協活動を盛り上げて頂きながら、先日急逝された故 高橋博久氏(東京舗装社員労組)に対して哀悼の念を示したいとの提案があり、出席者全員により黙祷を行いました。

以後は、式次第に準じて「年間活動報告・収支決算報告」が行われ、挙手により承認を頂きました。今回は、議長が退任されることもあり、今年度の地協役員案についての提案・審議がなされ、本多(前田道路労組)を議長とする新役員体制が全員の挙手による賛同を得て承認されました。新役員を代表して、本多議長より挨拶および今年度の活動方針案について説明があり、続いて森川事務局長より予算案の提案が行われ、共に満場一致で承認を頂きました。最後に万歳三唱の唱和をもって定期大会は滞りなく閉会致しました。

大会後は、会場を移してささやかな懇親会を行いました。最初は立食式で始まりましたが、30分もすると全員が椅子に座つてのくつろいだ感じでの会食へと移行しいき、和やかな楽しい懇親会となりました。

今年度は、年2回のレクリエーションにより全体的な単組間の交流を深めていくことを基本としながらも、堅苦しいことは二の次として、日常において今まで以上に各単組間で連絡を取り合つて、より細かなコミュニケーション造りを図り、各単組組合員の方々に、もっと気楽に参加してもらえる様な雰囲気 of 北海道地協を目指したいと思います。

北海道地協 議長 本多紀幸 (前田道路労働組合)

中部地方協議会定期大会

中部地協第14回定期大会が、去る平成15年9月17日(水)、大有建設(株)会議室にて開催されました。

14期活動経過報告、第15期活動方針案、第15期予算案と第15期役員選出案などが提案され、審議の上、全て満場一致で承認されました。

第15期の中部地協の活動予定については、

- ① 定例の幹事会を年5回開催し、労働組合の必要性や活動を広く理解していただくために、地域における構成組織、組合員の交流、教育を中心にした活動を展開して行きます。その内容も幹事役員が中心になりながらも、全員参加での手作りの地域協議会運営に努め、組合員のニーズにあった活動を行います。また時宜に応じて、本部からの情報を単組や組合員に提供します。
- ② 建設産業労働組合懇話会のうち、この中部地協で最も身近に活動しているのは建設連合愛知県連合会であります。過去にも合同幹事会や各種イベントを通じ交流を深めております。今後も同じ建設産業で働く仲間として、また益々厳しくなる建設産業を考えますと、更なる協力体制の確立が急務であり、中部地協としてもこの地域での問題解決やその提起について従来以上に双方の連絡を密にし合同幹事会や合同セミナーなどの開催を働きかけて行きます。

皆様の更なるご協力、ご支援をお願いして報告とさせていただきます。

中部地協 事務局長 小嶋 剛 (全大有労働組合)

関東地方協議会定期大会

平成15年9月26日(金)、株式会社NIPPOコーポレーション(当時日本舗道株式会社)本社会議室において、第14回道建労協関東地協定期大会が開催されました。当日は各単組幹部の他2名の出席をお願いしましたが、1名も出席されない単組もあるなど、求心力の低下が心配される厳しい状況となりました。

さて、平成14年度の活動報告についてですが、レクリエーションの目玉として企画していたソフトボール大会が雨天のため中止となり、目立った活動は行うことができませんでした。ただ、3回開催した幹事会での人的交流は非常に有意義であったと考えております。また、前議長が任期途中で退任されたため、手島副議長(東亜道路労働組合)が議長代行として関東地協を牽引してきた一年でした。

新年度は手島議長代行が正式に新議長に選出されました。その他新しく就任した幹部も含め、幹部一体となつて、限られた資金と時間を有効に活用していきたいと思います。

関東地協 事務局長 岩淵 哲 (NIPPO労働組合)

関西地方協議会定期大会



去る、9月22日(月)に大阪府立労働センター(エルおおさか)6F会議室において関西地方協議会の第14回定期総会を開催した。

総会には、加盟9単組(今回からフドウ道路が不参加)から約20名の代議員に出席して頂き、本年度の活動方針等において活発な討議がなされ無事終了した。

本部より松議長に参加頂き、本年度の活動方針の説明を受けた。乾議長からは厳しい状況の中で道建労協としての役割を認識し、みんなが参加できる行事を計画したいと述べた。

最後に12月13日(土)開催予定の大阪御堂筋のゴミ拾いボランティア活動をPRし多数の参加を呼びかけて終了した。

関西地協 事務局長 大坪 功幸 (NIPPO労働組合)

物知りクイズ

昨年は阪神タイガース18年ぶりの優勝やリトル松井のメジャーリーグ移籍と話題に事欠かなかったプロ野球！さて、今年はどうなる？

今回はプロ野球にちなんだカルト問題です！



- Q1** 日本プロ野球で初めて投球数0でセーブ投手になったのは誰？
(1. 金城 基泰 2. 福岡 納 3. 江夏 豊 4. 江川 卓)
- Q2** 東京ドームの天井スピーカーにぶつけて認定ホームラン第1号となった選手といえば誰？
(1. ホーナー 2. プライアント 3. 原 辰徳 4. ブーマー)
- Q3** 1985年4月15日、対巨人戦で阪神タイガースが記録した有名な「バックスクリーン3連発」。打った選手の順番は？
(1. パース→掛布→真弓 2. 真弓→パース→掛布
3. 掛布→パース→岡田 4. パース→掛布→岡田)
- Q4** 1994年パ・リーグでプロ野球史上初のシーズン200本安打を記録したオリックスのイチロー選手。最終的に何安打だった？
(1. 201本 2. 220本 3. 210本 4. 223本)

物知りクイズ「ビジネスマナー編」当選者発表

前回の物知りクイズ(第60号PAVE)の当選者が決定いたしました。問題は社会人にとって欠かせないビジネスマナーでした。全問正解者は5名でした。正解者少数につきややマナーを忘れかけた方3名の方にもお年玉をお送りいたします。ご応募ありがとうございました。

前回の答え

- Q1 B
Q2 C
Q3 C
Q4 C
Q5 B



当選者(敬称は省略させていただきます)

浅野 雄二	(東亜道路労働組合)
大城 正義	(東亜道路労働組合)
松浦 洋介	(東亜道路労働組合)
今野 曜子	(東亜道路労働組合)
梅原 一人	(NIPPO労働組合)
町田 順子	(NIPPO労働組合)
及川 博	(NIPPO労働組合)
藤木 友紀	(前田道路労働組合)

これからも物知りクイズをよろしくお願いいたします。

猪瀬直樹氏講演会から

平成15年12月12日ホテルラングウッドにおいて日建協の創立50周年記念式典があった。その中で、記念講演として道路関係四公団民営化推進委員会(以下委員会という)の委員として注目を浴びている猪瀬直樹氏の講演が開催され参加することが出来た。

猪瀬氏は「日本国の研究」で公益法人の特殊性、非効率システムを取り上げ構造改革を唱える看板作家として有名。小泉総理が提唱する改革路線と一致し、七人の侍(小泉総理曰く)として委員会の委員に指名されている。族議員や地方首長、官僚、公団関係者との闘いや、委員会内容の公開を行い、マスコミを通じて改革の必要性を訴え、世論を形成していった。改革の主だった項目は新規建設の凍結、40兆円の債務返済、利用料金の引下げ、四公団の地域別民営化であったが、委員会のメンバーそれぞれの思惑と外部環境から少しずつニュアンスが変わってきたようである。

当日は、委員会の最終報告が大詰めを迎え、自民党道路調査会・国土交通部会が与党案として委員会とは相違ある答を出したことで、TV局が撮影・取材に来ている中での講演であった。猪瀬氏は委員会の設立経緯や議事内容について小泉総理とのやりとりや裏話を含めながら説明を行い、「高速道路を造るなど言っているのでは無い。利用者のニーズに合ったものを造れと言っている」や「社会は市場要求で大きく変化している。建設業界や皆さんも市場に合うように変わる時ですよ」等を事例や体験談を交えながら講演された。また、労働組合が諸問題に真面目に取り組んでいるという認識を持ったと発言されていた。(高速道路建設凍結論急先鋒の自分を講演者として呼んだことに関心が高かったようである)

講演が終わるとスケジュールが詰まっているらしく質問時間も取られず「この本(道路の権力)にすべて書いてあるから読んでもらえば分かるから」と慌てるようにして会場を去って行った。数日後、道路関係四公団民営化について閣議決定され、委員会のメンバー三人が辞表を提出し委員会が機能しなくなった。今後委員会はどうになるのか分からないが、社会資本整備についての在り方は確固たる柱として揺らいでほしくないものである。

副議長 小山 郁文
(大成ロテック社員組合)



編集後記

「魔法のやかん」ってご存知だろうか。

ラグビー選手が試合中、アクシデントでグラウンドに倒れてしまったときにマネージャーと思しき人間がやかんを手にもって駆け寄り、そのやかんの水を倒れている選手の頭や額、怪我をした部位にかけると、あら不思議。選手は立ち上がってまた激しいプレーに参加する。そんな光景を往年のラグビーファンなら、ご存知のハズ。あの「やかん」である。かつてのプレーヤーである私も経験があるのだが、中身はただの水なのに不思議と立ち上がってプレーが続けられるものなのである。現在は冷却スプレーが主流で、メディカルサポーターというルールが出来て試合中でも適切な処置を施すようになっており、草ラグビーの試合でさえもかつての様にやかんで水をかけて「ハイ、復活」なんてことはまずなく、あの「魔法のやかん」は滅多に見られなくなってしまった。さみしい限りである。

現在の景気対策も、冷却スプレーじゃなく「魔法のやかん」で「ハイ、復活」なんて施策が無いものだろうか。
(東京舗装工業社員労働組合 野口光博)

〈応募方法〉下記を明記してお送りください。正解者の中から抽選で粗品をお送りします。たくさんのご応募をお待ちしております。

- 回答
- 賞品送り先住所・氏名および所属単組名
- 締め切り 2/28
- 今月の紙面で良かった点、気づいた点がありましたらご意見も是非お寄せください。

●宛先 〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11 NIPPO労働組合内
道路建設産業労働組合協議会『PAVE』宛 FAX 03-3535-4810
URL <http://www1.ocn.ne.jp/~cru>

※次号は6月発行の予定です。